

# 解剖・組織技術研究会第 20 回研修会参加報告

技術センター 医学系部門

中谷 宣弘

## 1. はじめに（目的等）

解剖・組織技術研究会は全国の献体処置に携わる職員（主に技術職員）が参集し、業務を行う上での問題点、改善方法について意見交換を行う会である。今回、これに参加することにより、献体処置やそれを取り巻く全国の状況に関する情報を得る事を目的とした。

## 2. 期間・場所

期間：令和 6 年 11 月 23 日

場所：東京歯科大学新館（東京都千代田区）

## 3. 参加者等

献体処置に携わる技術員 約 50 人

## 4. 研修内容

午前；研究会総会と教育講演「本邦における臓器提供・臓器移植の現状と JOT の取り組みについて」

午後；一般演題 2 題とグループワーク（4 グループに分かれ 4 テーマでの討論と発表）。

## 5. まとめと感想

私は今年度から会計幹事の主幹となり、金庫番として会の口座を預かる事になった。午前中に開かれた総会では、昨年度の会計報告と次年度の予算案を発表した。

研修会では、今回教育講演として臓器移植コーディネーターの方を招き、臓器提供・移植に関する現状についてご講演いただいた。死後自分の体を提供するという意味では解剖への献体と共通しているが、目的、システム、手続きの全てが異なる。詳細は割愛するが、臓器移植は 2010 年に法改正がなされ、それまで本人の意思表示が必須だったものが、家族の総意で脳死下での提供が可能となり、同時に 15 歳未満の小児からの提供も可能となったため、実施件数が飛躍的に上昇したらしい。その後現在に至る状況、移植コーディネーターの仕事などについて紹介された。余談だが、偶然にも最近「人魚の眠る家」という臓器提供に関わるストーリーの小説を読んだばかりだったことも手伝い、大変興味深く拝聴する事ができた。午後からは技術職員による 2 演題の発表後、参加者全員が 4 班に分かれ、それぞれ与えられたテーマでのグループワークを行った。ここでは、進行役の一人として、普段発言しない人でも発言できるよう配慮しながらテーマをまとめる事ができた。近年、研修会でグルー

ワークを取り入れる事が多いと聞いている。私自身は二度目の経験だったが、講演時の質疑応答での発言だと躊躇する人でも、グループワークでは少人数で話を廻すような形になるため、必然的に話すことになり、そのため、より多岐に渡った意見を聞くことができる。今回も、本学ではやっていない工夫などが色々聞かれ、非常に参考になった。幹事の一人として、このグループワーク形式を今後も色々な形で続けられるよう提案していきたいと思った。